

# 特攻基地とミサイル基地

## その1. 八重山戦の教訓

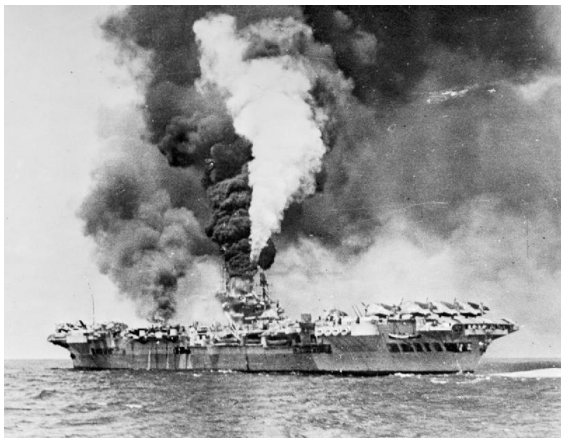


2019年4月15日 FB ページに投稿

先の八重山戦で、石垣島は、英米艦隊の激しい空爆と艦砲射撃を受けました。そして、敵の上陸は必至と見た軍の命令によるマラリア有病地への強制避難も重なって、住民に多くの犠牲者が出ました。1944年春から終戦まで約8000人の陸海軍部隊が配備されたとは言え、それまでは軍隊もおらず、地理的重要性も、軍需工場もない、一見何の軍事的意味もなさそうな島だったのに。

しかし、そうではありませんでした。島には、陸軍の白保、海軍の南（平得）、北（平喜名）という3つの軍用飛行場が造られていました。それらは、沖縄戦の開始とともに、夕方から夜にかけて台湾の日本軍航空基地から飛来し、未明に敵艦を求めて飛び立っていった特攻機の中継・発進基地として使われたのです。

沖縄本島方面に集結した米太平洋艦隊を特攻攻撃から守るためには、連合軍にとって、それらの飛行場は、真っ先に破壊すべき軍事目標でした。だから、石垣島に、連日爆弾とロケット弾の雨を浴びせたのです。



特攻機の命中で炎に包まれる英国空母フォーミダブル。先島の軍用飛行場攻撃に参加していました。

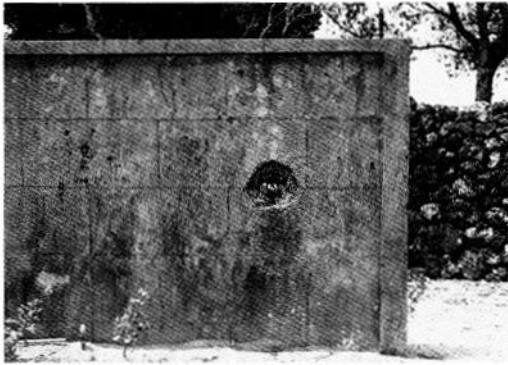


英米軍の空爆で飛行機が炎上し、煙に覆われた石垣島の軍用飛行場。おそらく、陸軍の白保飛行場と思われます。

現在石垣島に計画されている陸上自衛隊ミサイル基地の最も重要な装備は、地対艦ミサイルです。このミサイルは、「現代版無人特攻機」です。島から発進して、海面すれすれに飛び、200 kmも先の相手の軍艦を捕捉・追跡・体当たりして、爆発・破壊する兵器なのですから。

こういうミサイルを置けば、有事には、相手は自軍の艦隊を守るために、その基地を潰そうと大量のミサイルを撃ち込んできます。そして、逃げ場のない島で人々が犠牲になり、暮らしも、自然

も、惨憺たる姿に変わるでしょう。それは、八重山戦の教訓が、示していることです。



米軍のロケット砲弾を受けた屋敷  
内の大穴のヒンピン

艦砲射撃で大穴をあけられた民家のヒンピン  
竹富町史資料集「鉄田義司日記」p440

防衛省が民意を顧みず、環境アセスもせず、推進派市議から買い取った土地で造成工事を始めているいま、私たちは、この教訓をもう一度かみしめてみるべきではないでしょうか。私たちがここではっきりノーと言い、予定地の半分を占める市有地を売らなければ、この基地建設を立往生させ、造らせないことができるのですから。